

令和7年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人別府サレジオ学園
大分明星幼稚園

【建学の精神】

教育理念：親しみは愛情を生み、愛情が信頼を生み、信頼は教育を実らせる

予防教育法：ドン・ボスコの教育理念に基づく全人間教育

教育姿勢：キリスト教の教え（カトリックの価値観・理性・慈愛）を土台とした心の教育

実践目標：一人ひとりが大切にされ、愛されていると感じられるような関わりをする

1. 重点的に取り組む目標・計画

目標：希望、神様とつながっている私たち

- ① 教育目標：慈愛を土台に遊びの中から関係性づくりをしよう
- ② 園内研修：子どもが主体的に好きな遊びを見つけられる環境の構成や援助の方法を探る
- ③ SDGsに取り組もう：一人ひとりが美しい地球にしよう

2. 評価項目の達成及び取り組み状況 (A:十分に成果があった B:成果があった C:少し成果があった D:成果がなかった)

	評価項目	評価	取り組み状況
①	慈愛を土台に遊びの中で関係性づくりをしよう (各学年の目標)	B	研修を通して慈愛についての理解を深め、遊びの時間を十分に取る中で、園全体で子どもの姿の共有を日々行い、子どもと一緒に遊ぶ中で信頼関係の構築ができていった。
②	子どもが主体的に好きな遊びを見つけられる環境の構成や援助の方法を探る	B	登園後から十分な時間を確保し、季節に合わせた環境設定を行いながら、戸外遊びを行うことで異年齢の関わりも深まっていたが、室内遊びの環境構成については教員が学びを更に深める。
③	一人ひとりが美しい地球にしよう ・水を大切に使う ・どんな食事も感謝して食べよう ・繰り返し使う (SDGs)	B	水の使い方については常時声をかけ、水の大切さを伝えると自らが心がける様子が見られた。食育を通して食事の大切さを感じて残食も減っていった。折り紙や画用紙などの教材の使い方についてはまだまだ今後の工夫が必要だと思う。

3. 総合的な評価結果

評価	理由
B	遊びの時間の確保を十分に取ることで、異年齢で助け合い学び合う力を培っていったが、子どもの思いを引き出す環境準備、構成への教師の工夫や学びを深める事の課題が残る。SDGsにおいても、遊びや生活の中で気付ける点があるのではないかとという視点で深めていきたい。

4. 今後取り組む課題

課題	具体的な取り組み方法
環境構成の工夫	発達に即した教材研究を深めるとともに、子どものイメージが広がり遊びこめる環境構成の工夫を職員間で連携を取りながらすすめていくと共に振り返りを大事にしていく。
支援を要する子への理解と関わり	子どもの特性の理解と受け止めに心掛け、個別の関わり方や集団への促しの方法、保護者への対応方法を日々振り返りながら職員間で連携し検討していく。
SDGs	日々の生活において子どもが自らがかけている様子を言葉で認め、子どもの気づきからクラスや学年で視覚的な重点として取り組んでいることが分かるように記しながら取り組む。

5. 学校関係者評価委員会の評価

子どもたちに不審者への危険性を伝えると同時に、挨拶を促していくのは難しいことだと思うが、知っている方やお客様には元気の挨拶ができるように継続的に大人から声をかけていくことは大事だと感じる。物を大切に扱う点については、安価に手に入りやすいものが溢れている時代の中で、『大事に使う』を園だけでなく家庭でも同様に行えるように、園での取り組み状況を家庭へ発信しながら共に育てていく事で子どもの意識も高まるだろう。時代の変化はあり、それぞれの価値観の違いはあるものの、大分明星幼稚園で大切にすべき点を細分化した視点を統一することで、『自由に伸び伸びと表現するためにも、基準が必要になると思う。
